

2024 JUA/EAU Resident Programme 参加報告

松島俊樹 (長崎医療センター)

今回、JUA/EAU Resident Programmeとして、フランスで開催されたEAUに参加させていただきました長崎医療センターの松島俊樹です。初めての海外学会参加で不安でいっぱいの中、同プログラム参加者の上川先生、佐藤先生に連絡させていただき、初日から一緒に参加する手筈となり、少し安心しながら渡仏致しました。

学会初日にJUA-EAUのジョイントセッションがあり、3人で会場入りしました。私自身、国内/国外問わず、大きな学会への参加が初めてであったので、会場の規模、雰囲気、活気に圧倒されました。参加パスを取得のためスタッフに確認すると、「君たちはfree(無料)参加だから、ダブルチェックが必要よ」と言われました。身分を証明するものはパスポートくらいしかない不安に思っていると、スタッフが二人でモニターを確認し、「OK、楽しんで」とパスを手渡してください、ついに会場内に入ることが出来ました。

JUA-EAUのジョイントセッションのテーマは「腎癌」、「腎移植」でした。まずは、「腎癌」について、Minervini先生よりテーラーメイド治療の重要性、田中先生より腎がんの有転移患者に対する原発巣摘除についてご講演頂き、discussionとなりました。症例提示があり、壇上で日本の先生方が、海外の先生方とdiscussionされているのを目の当たりにし、とてもかっこよく思えました。「自分もいつかはこんな風になれたらいいな」と思いつつ、テーマ以外の様々な講演に移っていきました。その中でも私が興味深く思ったのが、宮内先生がご講演されていた「前立腺肥大症に対するAquablation治療」です。不勉強な私としては初めて聞く治療であり、興味深く拝聴致しました。最後に「腎移植」について、平井

先生より拒絶の診断におけるdd-cfDNA、Breda先生よりロボット支援での腎移植、Alcaraz先生より複雑な血管系での移植についてご講演頂き、discussionとなりました。いろいろなdiscussionの中、日本の先生が、ロボット支援での腎移植患者の質問をされた際に、Breda先生が、いろいろと説明されたあと(正直分かりませんでした…)、「うちのプログラムを受ければ大丈夫」といわれ、会場が沸いていたのを覚えています。

2日目は、悪性腫瘍のガイドラインの変更点についてのセッションを見学したのちに、若手泌尿器科の発表セッションを見学しました。自分でクリニカルクエストを見つけ、それを解析、研究し、自信をもって発表されているところをみて、「このようにして研究はすすんでいくのか」と、同世代の説明で、より分かりやすく実感しました。次に、同大学の先輩や同じプログラムに参加している佐藤先生の発表を見学しました。同世代で立派に発表されている姿をみて、「自分も頑張らなくてはいけない」と感じました。

Live surgeryではHugoを用いたRARP、RAPNが行われていました。両手術ともに、リアルな現場で、解説をしながら手術を進められており、大変勉強になりました。

隙間時間に、企業ブースの見学を行い、知らない企業や目新しい機械などがありました。5-ALAのブースでは、膀胱癌を見つけるゲームに参加し、「白色光では見えないけど、5-ALAを使用するとこんなにみえるの」とスタッフに熱弁され、大変楽しく学ばせて頂きました。

学会終了後の空いた時間に、同じプログラムの参加者である上川先生、佐藤先生と観光に行かせて頂きました。パリでの開催で、セーヌ川のクルーズに行こうとするも、



会場前で



佐藤先生、上川先生と凱旋門へ

川の増水でクルーズは中止。しょんぼりしながら歩いていると、エッフェル塔、凱旋門と素晴らしい光景が目の前に現れ、皆で写真撮影を行いました。また食事も一緒させていただき、つかの間の休みも楽しませて頂きました。同世代の別地域の先生方と、一緒させていただく機会はいままでにあまりなかったので、とても貴重なつながりとなり、皆さんと一緒にの舞台にいるためにもま

すます精進しなければという気持ちになりました。

最後になりますが、このような機会を与えてくださった日本泌尿器科学会 富田善彦国際委員長、欧州泌尿器科学会の皆様、推薦いただいた長崎大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器科学 今村亮一教授ならびに関係者の皆様方、同プログラム参加の上川先生、佐藤先生、支えてくれた家族に厚く御礼申し上げます。